

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「心に触れ 願いに気づき 必要に応え 信頼を築いていく」の法人理念の下、事業所の理念をつくり上げている。職員は心を合わせ「社会の一員として地域で暮らすことを支える」ことを目指している。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>ホーム内や事務所に理念を掲示し、常に理念に振り返り話し合いをもっている。管理者と職員は毎月チームや個人の目標を掲げ、取り組みを振りかえり気づきを得ながら、理念の実践に向けている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議や来訪時など、折りに触れ理念をお伝えしている。また、ホーム便りを発行し、「社会の一員として、地域で暮らすこと」を目指した活動の様子をお伝えしている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>町内や小学校の行事など、地域活動に積極的に参加し、交流を図っている。入居者の能力を大切に、手づくり品(雑巾や手芸品)の寄贈や清掃ボランティアなど、できることを少しずつ継続している。管理者は、地域の認知症理解の促進のため、キャラバンメイトとして講座を開催したり、小学校に認知症の本の読み聞かせに出向いている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>評価を単なる業務の見直しの機会としてだけでなく、地域密着型サービスの役割を、様々な視点で考え続けていくために有効に活用していきたいと考えている。</p>
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>全職員が必要な時に、情報を提供したり、制度を活用できるよう、さらに勉強会をしながら知識を深めていきたいと考えている。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>「虐待はしていない」と思い込みや過信せず、いつでもその可能性と背中合わせであるという危機感をもち、認知症の方の尊厳を守り防止に努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>運営推進会議では、できるだけ地域の方やご家族の意見をくみ取れるよう、和やかなフリートークの時間をつくっている。些細なことでも一緒に考えていきたいと考えている。</p>
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者と法人内の職員との交流を日常的に図ることで、やむを得ない異動によるダメージを防ぐことに役立っている。新採用者にあたっては、チームでの支えあいを大切にし、早い段階で良好な関係を築けるよう、詳細な引継ぎを行ったり仲介役となっている。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>17 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>それぞれの能力や経験に合わせた計画をたて、外部研修への積極的な参加の機会をつくっている。法人内では、研修委員会による研修会を開催し、サービスの質の向上を目指している。又、管理者は適宜文献など情報提供し、職員のスキルアップに努めている。</p>		<p>チームや個人の目標を振り返り、それぞれが自らの介護観や死生観を深めていけるよう、認知症ケア専門士である管理者がスーパーバイザーとなり、意見交換をしている。</p>
<p>18 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>様々な協議会に加入しており、研修会などに参加しながら、積極的にネットワークをつくり、情報交換や勉強会をしている。</p>		
<p>19 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員のストレスや疲労をためこむ前にその把握に努め、解決にむけている。又、勤務に対する希望を受け入れたり、良好な人間関係・職場環境を築けるように配慮している。</p>		<p>管理者は、さらに職員のよき理解者となり、日常的に気軽に話し合える雰囲気をつくっていきたいと考えている。</p>
<p>20 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員が気づきを得たり、毎月目標を評価しながらケアの質を高めていけるよう、動機づけをしている。チームにおける自らの存在価値や意義を実感したり、メンバー同士で支え合っている。又、健康管理や資格取得に向けた支援を行なっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>専門職として、問題解決に向けた助言をすぐ口に乗せず、在宅介護の労を労い、本人・家族の胸の内を十分に吐き出すことができるよう、ゆっくり話を聴くようにしている。必要時、介護保険制度やホームの役割についても説明を加えている。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人と家族の意向を十分にくみ取った上で、グループホームの入居が適切かどうか考えている。すぐに入居できない時には、他のサービス利用を検討するなど、その方の生活を支えるために適切に支援するように橋渡ししている。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>可能な限りなじみの関係をつくれるように入居前の交流をもったり、詳細な情報集に努めたり相談しながら、本人が安心してグループホームでの暮らしがはじめられるよう支援している。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の知恵や技に支えられ、助けられたり教えていただきながら、生活を組み立てている。共に人としての感情を分かち合いながら、生活のパートナーとしてかわっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	専門職としての見解ばかりを強調せず、そのことについての家族の考えを引き出しながら、共に考えていく姿勢を大切に、折りに触れそのことを伝えている。		サービスを提供する側、される側という関係ではなく、共に入居者本人を支えていく同志としての姿勢を伝え続けていきたい。
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族との関係性をよく理解し、仲介している。入居により少し介護の負担が軽減されたことで、良好な関係を取り戻していけるように支援している。本人と家族の楽しい時間を持っていただくために、行事への参加呼びかけ等を積極的に行なっている。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族から、折りに触れ、これまでの人生の歴史をお話していただき、これまでかかわってきたなじみの人や場所などを把握している。職員がやりとりを代行したり、手紙を出すなどの交流をし連絡調整することで、入居によりそれらのつながりが途切れることのないように支援している。		家族は、グループホームへの入居により、これまでの生活や関係を諦めてしまうことがあるため、それらを大切にしていきたい意向を伝え続け、家族と共に支援していきたい。
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入浴や食事等の様々な活動の中で、「一つ屋根の下の仲間」を意識できるような場面を作り出し、互いに支え合っていけるように仲介している。それぞれが主役になる場面や役割を持ちながら共同生活をおくることにより、お互いを認め合いいたわりの気持ちを持ち生活できている。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了に際しても、相談に応じる姿勢を示している。開設以来から、退居された方の家族とも連絡を取り合ったり、相談をしていただくなどして、ここでの「出会い」「かかわり」を大切にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>生活の場面場面での本人の言葉や行動を見逃さず「本当はどうしたいと思っておられるか」話し合いを重ね、常に意向をくみ取れるよう努力している。</p>	<p>ご本人の意向を何とかしてくみ取ろうとする意識を高く持ち、一人ひとりを大切に思い、心をよせて真のニーズを把握していきたい。</p>
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居により、これまでの生活が途切れてしまわないよう、生活歴等の情報がとても大切であることを理解していただき、本人や家族・かかわったサービス事業者から丁寧に聞き取りし役立てている。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>一日のトピックスやエピソード、職員の気づきを加え記録・申し送りすることにより、24時間の些細な情報を積み重ねトータルで本人の状態を把握できるようにしている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>チームメンバー全員が、本人の立場に立って考え、本人・家族の意向と合わせ「本人にとっての最善」を考えている。日常的に本人の状態について話し合いをもち計画にいかしている。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日常の生活の中での本人の状態をよく把握し、状態変化や新たな課題やニーズが抽出された時は計画の見直しがされている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間の流れを大切に記録をすることにより、「生活を支える」ことを意識している。本人の気持ちを言葉からだけでなく把握できるよう、エピソードやケア側の考えも記録し生活支援に役立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が受診や外出など対応できない時は、その時々々の要望にできるだけ応えていけるよう、満足していたできるように取り組んでいる。		さらに入居者の主体性を引き出しながら支援していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の神社、公民館、学校とのかかわりを継続している。公共施設の利用を積極的に行ったり、必要時消防などの協力を得たり、社会の一員として暮らすことを意識して支援している。民生委員の方からの助言・協力により、地域とのかかわりの機会が増えている。		地域とのかかわりに関しては、活動していることに対しては、地域の方にもご理解をいただきながら継続していきたい。
38	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合いや相談はできているが、他のサービス利用には至っていない。		積極的に情報交換し、本人の暮らしの質を高めていきたい。
39	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域の認知症理解のため、キャラバンメイトとしての活動などについて、助言をいただいている。また、運営推進会議への出席の際は、貴重なご意見や助言をいただき、参考にしていく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向により主治医を決定し、健康面について相談できている。受診の支援時は、暮らしの中で得られる貴重な情報を医療側に伝え、適切な医療を受けられるようにしている。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	家族の会の活動や研修でご講義いただいた専門医、認知症ケア学会でお世話になっている医師などに、積極的に相談し貴重な助言をいただくことができている。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者である看護師が中心となり、日常の健康管理について判断したり相談に応じている。又、かかりつけ病院の看護師や地域連携室の看護師への日常的な相談により、健康管理を強化している。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	リロケーションダメージを最小限にするために、詳細な情報提供(本人の安心をつくりだすための情報)をしている。万が一の入院時は、病院体制の限界をホームの職員がカバーしている。(拘束をしなくてすむよう、そばに付き添うなど)		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	加齢に伴う体調の変化は免れないため、入居時から健康管理等について、話し合いをしている。主治医や看護師とも、折に触れ重度化や終末期の対応などの方針を確認するようにしている。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人・家族の意向により、ホームを重度化や終末期の居場所として望まれた場合、日常の生活支援の実践をふりかえりながら、自分たちの「出来ることは何か」考える機会を、つくっている。		医療側にもグループホームの役割を理解していただけるよう、受診の際にでも働きかけを継続していく。又、職員が「生活の延長線上に重度化や終末期がある」という視点でとらえられるよう、勉強会などしながら考えを深めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46 住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>これまでの暮らしやケアを途切れさせないよう、家族や関係機関と情報共有し、本人の安心をつくりすようにしている。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>47 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりの入居者を心から大切に想い、「自分だったら」「自分の大切なひとだったら」と考え、声かけやかかわりにおいて、プライバシーの確保を意識している。</p>		
<p>48 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>それぞれの理解力や判断力に応じた声かけやかかわりにより、様々な場面において自己決定や感情の表出をしながら生活できるように支援している。</p>		
<p>49 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>それぞれの体調や気分によって、過ごし方を一緒に相談したり、引き出しながら一人ひとりのペースに合わせ支援している。</p>		<p>さらに一人ひとりの意向に柔軟に対応できるよう、職員が全力で工夫を重ねていきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の好みや希望を大切に、又、自らの整容を意識して過ごせるよう、衣類の選択など丁寧にかかわり引き出している。本人・家族と相談し、協力をいただきながら理容・美容など身だしなみの支援ができています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材をつかったり、郷土料理をメニューに取り入れたりして、工夫している。又、生活の中で食にかかわる行為を大切に考えている。買い物や調理、食材の下ごしらえなど、様々な場面で個々の能力に応じ入居者がかかわることができるようにしている。職員を交えた全員で食卓を囲み、心地よい団欒の時間がもてるように支援している。		
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	できるだけこれまでの本人の嗜好を大切に、身体状況に応じて飲酒や食べ物の嗜好を取り入れ、豊かな生活を目指している。又、飲料などの好みの温度も把握し、入居者がおいしくいただけるよう心配りしている。		
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、具体的な排泄の支援(排泄の自立や保清など)について工夫を重ねている。排泄介助時の本人の気持ちに、繊細な心配りしている。		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	気の合う入居者同士の入浴や、入浴を拒否する入居者には職員も脱衣したりするなど、入浴を楽しむことができるよう支援している。入居者の希望に合わせ、入浴のタイミングを工夫している。		
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動により、生活のメリハリができることでリズムが整い安眠できるようにしている。又、夜間の睡眠状況についても十分に把握している。年齢や健康状態などに配慮し、適宜休息ができるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事や針仕事など、一人ひとりの力を発揮しながら生活できるよう、役割を見出したり、好きなことをしながら生活を楽しめるようにしている。又、その際の様子を職員が共有し、次のかわりに工夫を重ねている。		それぞれの入居者が力を発揮し、自信を回復しながら暮らせるよう、「できること」「わかること」を把握し支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や受診時の支払い行為を支援したり、少額の金銭管理を見守り、生活の中でお金を持つことを支援している。その大切さを家族にもお話し理解していただいている。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの心身の状況に沿って、その日の希望を引き出しながら、買い物や散歩ドライブなどに出かけ、気分転換や楽しみごとにつなげている。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	生活歴に基づき、趣味を生かした楽しみごとやこれまで継続してきた楽しみごとに参加できるよう支援している。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠くにお住まいの家族や親しい方との電話を仲介したり、代筆による手紙の返信を支援している。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪者に対しても常に優しい笑顔での対応を心がけている。最近の暮らしぶりや活躍ぶりをお伝えしたり、会話を仲介したり、なじみの方々との時間を大切にできるように心配りしている。		併設のケアハウス入居者やデイサービス利用者も立ち寄り、お茶を飲んだり休んだりしている。なじみの関係を築いていけるよう仲介している。
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人ひとりの想いを大切にし、自由で安らぎのある暮らしを支援するために、日常の生活支援をする中で折りに触れチームの意思統一を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		職員間で、お互いのケアをみて身体拘束になっていないか、日常的に話し合いを続けている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけずに、自由に入出入りしている。行動を見守ることができるよう、また来訪者の把握を併設施設の職員とも連携し、安全と自由な暮らしに向けている。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の所在や安全確認のため、勤務者同士声をかけ合い、見守りを行なっている。常に本人の気持ちを考え、監視とならないよう気をつけている。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の活動意欲を引き出したり、その人らしさが失われないよう、生活の場としての雰囲気も作り出しながら、安全面の配慮をしている。理解力判断力の低下に伴い、危険な状況が起こる可能性を念頭に、注意の必要な物の取り扱いをしている。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	危険予知能力を養うため、日常生活支援の中での「ひやりはっと」を見逃さずケアを振り返り、職員間で対応策に工夫を重ねている。リスクマネジメントに関する勉強会を実施し、知識を深め意識を高めている。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルを整備し、折りに触れ見直し、確認をしている。応急手当の講習会にも参加の機会を得、緊急時に備えている。		命を預かることの重みを忘れることなく、速やかな緊急時の対応ができるよう、一人ひとりの知識や技術の確認を継続していきたい。
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日常的に災害時の対応を考えるために、実際の地震発生時の都度、避難誘導しながら繰り返し検討している。夜間など職員数の少ない場合についても、消防の協力により、避難・通報・消火訓練を実施している。		近隣の協力を得られるよう、日頃の交流を大切にしながら、少しずつ働きかけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	生活の中で起こり得るリスクも心身の状況等により変化してくるため、その都度お伝えしている。安全と自由・安らぎのある暮らしを目指しながら、どのように対応しているかを明確にしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は、入居者が体調の変化を明確に伝えることができないことを理解している。普段の様子とちがうなと感じたことを大切に、看護師に報告して対応している。		
71 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容をいつでも確認できるように説明書を手元においている。効用(投与の目的)や副作用を知り、観察に役立てている。処方内容に変更があった時には、職員間で情報を確認しあっている。確実な内服ができるよう、一人ひとりの能力に応じて介助している。薬剤についての疑問点も気軽に相談できている。		
72 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日常生活の中で、便秘が少しでも改善できるよう、水分量の確保、栄養状態、運動などそれぞれの状態に合わせて工夫し、自然排便を促している。		
73 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの能力に応じ、義歯の洗浄や食事後口腔内の清潔の保持に努めている。歯科衛生士の資格をもつ職員を中心に、ケアを工夫している。		
74 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は母体施設の栄養士がたてている。食事や水分摂取量を把握し、十分な量を確保できるよう、チームで情報を共有しながら支援している。又、必要に応じて母体施設の栄養士への相談も行なっている。		栄養状態や水分の確保については、看護師を中心に見極め、必要時医療との連携を行なっていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成したり、流行時の情報収集に努めている。予防・対応について再確認しながら取り組んでいる。感染症予防の基本として、地域連携室の看護師による手洗い指導を受けている。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材はすぐに冷蔵庫にしまい、使い切るようにしている。布巾や調理器具などの衛生管理を徹底し、調理にたずさわる際の手洗いや留意事項を守っている。研修等にも参加し、その意識を高めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	暮らしの場であることを大切に、洗濯物や布団を干したり、季節の草花を玄関前に植え、入居者の手づくりの表札を置きあたたかさをつくりだし、入りにくさや威圧感を軽減させている。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	加齢による五感の変化を理解し、一人ひとりの状況にあわせ環境を整えている。カーテンやすだれで採光を調節したり、季節の花を飾ったりして、「快」の刺激を作り出し、居心地のよい空間づくりを工夫している。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一同に集まる食堂以外に、気の合う仲間同士で過ごせるようソファを置いたり、畳の小上がりで横になって休むことができるように工夫している。		今後も入居者の状況に合わせ、関係性を考えるなどして環境を整えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室が、本人にとってのくつろぎ安らぎの居場所になるよう、なじみの物や大切なものをそばにしつらえることができるよう、ご家族の方に協力していただいたり、職員が本人と相談しながら居心地の良い居室づくりに取り組んでいる。		
81 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓をあけ、臭いの除去に努めたり、新鮮な空気の取り込みをしている。温湿度を把握し、また本人の訴えをよく聴きながら、室温の調節を行なっている。扇風機やファンヒーター、加湿器の使用時は安全に使用できているか確認している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
82 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	座位時の姿勢の保持のため、足台やクッションを利用している。手すりを追加設置したり福祉用具を活用するなど、一人ひとりの身体機能の低下に伴い、少しずつ工夫を重ね生活環境の改善に努めている。		
83 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	「できること・わかること」を活かし、一人ひとりの生活のしづらさを最小限にできるよう、環境を整えたり、声かけを工夫したり取り組んでいる。		
84 建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前や裏庭のスペースを利用し、花壇や家庭菜園をつくったり、外気浴・日光浴をしたり楽しみの空間を作り出している。又、廊下を歩行練習したり、壁面に入居者の作品を展示し自信の回復に役立てている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・法人理念の下、職員がそれを理解し入居者とのかかわりを意識している。
- ・私達職員が、入居者の方々にとって「人生最期に出会う人」になるかもしれないという貴重な出会いを真摯に受け止め、一人ひとりを大切に思い丁寧なかかわりをしている。
- ・職員は生活のパートナーとしての意識をもち、「共に～する」ことを通し、入居者との関係を深めている。
- ・季節の移り変わりや時の流れを感じながら「あたり前の生活」を目指している。また、入居者間、職員間、入居者と職員間の良好な人間関係の中、暖かい雰囲気にも包まれている。
- ・入居者の言動や表情を大切に、本人の望む生活を追及し続けている。
- ・入居者のできること、わかること、得意なことを十分に引き出し、これまでの人生に誇りを持ち続けることができるようにしている。一人ひとりの力の発揮を～心の作品展～と題し、家族や地域の方にみていただいている。認知症になっても、何もかもわからなくなるのではないことを伝えている。又、小学校に認知症の絵本をよみかせに出向いてメッセージを送り続けている。
- ・地域の一員として、自分たちにもできることを少しずつ活動している。(町内の清掃活動や雑巾や手づくり品の寄付など)